令和元年度

実践持ち寄り会発表要旨

令和２年　１月 25 日（土）10：30～12：30
国際健康開発センター2 階ギャラリー

公益財団法人　兵庫県国際交流協会
兵庫日本語ボランティアネットワーク

HIA 兵庫県地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業　文化庁 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業

グループ		団体名	テーマ
A	1	NPO 法人 神戸定住外国人支援センター	【学習者の声】 日本語を使う実践の場づくり
	2	公益財団法人 姫路市文化国際交流財団	【教室運営】 在住外国人のための日本語学習支援
	3	西明石日本語教室	【日本語支援活動】 にほんごをはなそう！まなぼう！たのしもう！
	4	知っとう神戸	【日本語支援活動】 スピーチ
	5	NPO 法人 にほんご豊岡あいうえお	【連携・ネットワーク】 但馬地域における日本語教室のネットワーク 「たじま多文化共生ネットワーク」
	6	NPO 法人 小野市国際交流協会	【イベント】 文化庁・日本劇団協会主催コミュニケーション ワークショップ「にほんごであそぼう」
B	7	神戸中国帰国者日本語教育 ボランティア協会	【学習者の声】 高齢学習者は語る～みんな自分の物語がある～
	8	NPO 法人 加東市国際交流協会	【教室運営】 2018 年 11 月「どんな日本語教室にしたいか」 から 1 年間の実績
	9	佐用日本語教室	【日本語支援活動】 楽しく続ける‼～主婦による主婦のための教室～
	10	NPO 法人 多文化センターまんまるあかし	【子ども支援】 外国にルーツを持つこども達の未来に寄り添う！
	11	NPO 法人 篠山国際理解センター	【連携・ネットワーク】 企業との連携について
	12	東灘日本語教室	【イベント】 日本語スピーチ大会の意義と実践

発表団体の活動地域

新温泉町
豊岡市
⑤
香美町
養父市
朝来市
丹波市
宍粟市
神河町
篠山市
⑪
多可町
⑨
佐用町
市川町
西脇市
猪名川町
福崎町
加西市
加東市
⑧
三田市
上郡町
相生市
たつの市
姫路市 ②
川西市
小野市
⑥
太子町
宝塚市
赤穂市
加古川市
三木市
伊丹市
西宮市
尼崎市
稲美町
神戸市
①④⑦⑫
播磨町
③⑩
芦屋市
明石市
淡路市
洲本市
南あわじ市

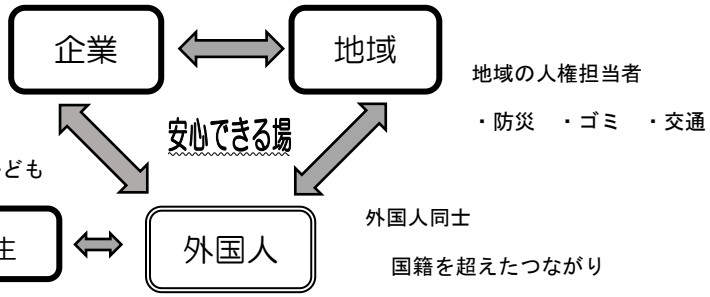
1	発表団体	NPO 法人　神戸定住外国人支援センター（KFC）
2	タイトル	日本語を使う実践の場作り A ふたばまつり模擬店　B 学習者を講師に迎えて　C ポスター発表
3	対象	当センター学習者（生活者）
4	実践報告	・どうしてその課題に取り組みましたか。 教室に参加している学習者にとって日本語を使う実践の場が必要ではないかという日頃の問題意識より。 ・どんな目標をもって取り組みましたか。 学習者に任せる。できるだけ支援者が口出ししないでやってもらう。 ・何をどのように進めましたか。 始めにアウトラインだけ説明し、それ以外は自分たちで決めて進めてもらう。 ・うまくいった点について ① 学習者の成功体験「日本人と日本語で協働作業ができた」 ② 学習者と彼らの文化に対する理解が深まった ・今後の課題と感じることについて 日本語能力レベルに応じた「日本語を使う実践の場」が必要 A：ふたばまつり模擬店 B：学習者を講師に迎えて C：ポスター発表
5	活動の場の特徴	ボランティア支援者による地域に住む外国人のための日本語教室。 日曜日と夜の教室の学習者は、主に働いている男性で、職場でのコミュニケーションの円滑さを求めて学習に来ている。

1	発表団体	公益財団法人　姫路市文化国際交流財団
2	タイトル	在住外国人のための日本語学習支援
3	対象	地域の在住外国人
4	実践報告	日本語学習支援事業 ①日本語講座　②日本語ひろば ①日本語講座 有資格講師による授業形式の学習支援 テキスト「みんなの日本語」などを使用し、基礎から日本語を学ぶ。 初級 A～F、初中級、中級 9 クラス、各クラス定員 20 名、年 3 期、各期 10 回、1 回 90 分、1 クラス 3,000 円 初級、初中級クラスは日曜日、中級クラスは土曜日に開催。 初級 A クラスから初中級クラスまでは同じ講師が持ち上がりで担当するようになっている。 ②日本語ひろば ボランティアによるグループでの会話練習中心の学習支援。 ボランティアは、養成講座（12 時間）修了者。 学習者は基本的に「みんなの日本語」Ⅰ修了レベル以上であること。 年 3 期、各期 12 回、1 回 90 分、活動曜日は、木・金・日曜日。 グループは基本的には固定だが、欠席や飛び入り参加などがあるとコーディネーターがグループを再編し、学習を始める。
5	活動の場の特徴	①と②との差別化を図るため、①は文法中心の授業、②は会話練習中心としている。また、グループでの活動を円滑に行うため、②に参加する学習者は、①の初級 C クラス（みんなの日本語Ⅰ）までの学習が修了していることを条件としている。 日曜日の場合、①（あるいは②）を午前中に受講し、午後から②（あるいは①）に参加することができ、効率的に学習することができる。

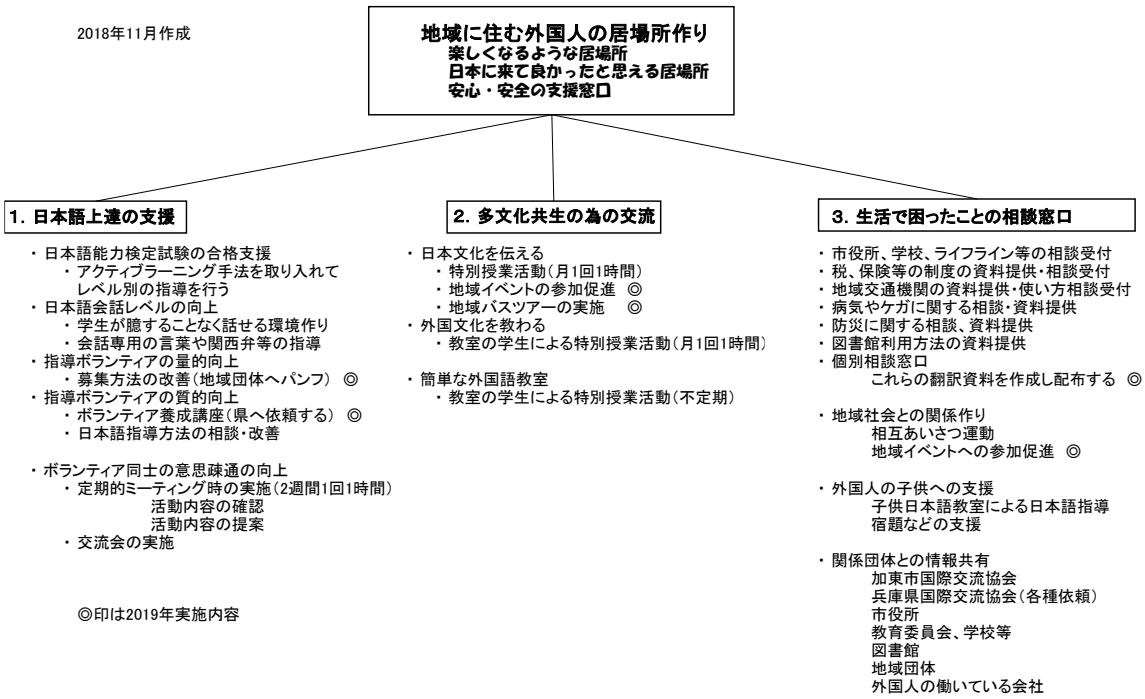
1	発表団体	西明石日本語教室
2	タイトル	にほんごを　はなそう！　まなぼう！　たのしもう！
3	対象	日本語教室を知らない方、　在住者・技能実習生・研修生
4	実践報告	西明石日本語教室は 1998 年 4 月に発足し、一昨年には明石市より功労表彰を受賞しました。 昨年、20 周年記念誌を作成し、市役所、コニュニティセンターなどに配付して広報を行いました。 また、創設時の支援者を招いてお祝い会を行い、創設者へのお礼、現役支援者のモチベーションアップ、継続する事の意義を再認識しました。また、記念誌を発行した事から、市内のボランティアグループ交流会などで、日本語教室の紹介を依頼される様になりました。 今回は、2 つの活動について発表します。 ①西明石日本語教室の紹介 市内には沢山のボランティアグループが有りますが日本語教室は少ないので、一般の方に、在留外国人の傾向、我々の日本語教室の動向や活動内容を説明して、技能実習生などへの理解と日常生活での協力をお願いしています。聞いていただいた方からは、確かに外国人が増えている事を実感しており支援したいとの声を聞いていますが、一方で、我々日本人の近所付き合いや地域の活動が不活性であると感じています。 ②外国人学習者による「お国じまん」（インドネシア編） 同じ国の学習者グループに、自身の国を教室で紹介してもらう活動を行っています。自分達が紹介したい内容を考えて発表しました。自主的な活動であり、皆さんの前で発表する事も自信をつける良い経験になると思います。事前に考えたメモを読む様な発表になっていますので、質疑応答を通して自由に発言が出来る様に活動を継続したいと思います。
5	活動の場の特徴	外国人学習者は約 70 名が登録、支援者は 20 名で、毎週日曜日の午前中に教室をしています。日本語学習の他、料理教室、書道教室、バスツアーなどを行ない、学習者が楽しみに来る居場所作りを目指しています。

1	発表団体	知っとう神戸
2	タイトル	スピーチ
3	対象	来日してから長いが、日本語が定着しない学習者
4	実践報告	**実施日**　：2019/12/17　（第 18 回活動日）　**活動内容**：スピーチ発表会 **参加者**　：学習者 6 名、サポーター6 名、オブザーバー4 名 **経過**：学習者たちは、それぞれに約 1 か月間サポーターと相談しながら発表の準備をした。期間中に実家に帰国したり、仕事であまり参加できなかったりした学習者もいたが、出産で休んでいた去年の学習者も参加してくれた。 **【今回スピーチを取りあげためあて】** ・自分で教材を選び、自分の考えをまとめる機会とすること。 ・スピーチを「聞く」と感想を「話す」がセットで日本語能力に自信をつけること。 【特に、以下の 3 人の学習者について報告する】・・・名前は全て仮名です。・・・ ・桂林　杏莉さん　　来日して 20 年。夜間中学に通い N2 も取得しているが、“まだ、わからいことがある”と教室に参加している。 『赤毛のアン』から「素敵な贈り物」を朗読。「私にとってクリスマスの素敵な贈り物になりました。」との感想に感心させられた。 ・大河　鈴さん　　来日して 10 年。日本人である夫との会話は、単語のみだという。ショートストーリーの「ピカピカの家」を読む前に自己紹介を用意してきた。「日本語の勉強はとても楽しいです。日本語をもっとうまくなるように勉強します。」と堂々と発表できた。朗読はうまく発音ができなくて聞きづらいところもあったが、最後まで読み終えた。 ・雛形　文さん　　来日して 8 年。他の日本語学習の場で教材として取り上げられた新聞記事に共感して読むことに決めた。自宅で辞書を使って漢字の読みや意味を調べてきた。繰り返し読む練習をして、「コミュニケーション」や「ハードル」などの言いにくかった言葉も言えるようになった。「『知っとう』に来るようになって日本語が分かってしゃべれるようになって嬉しい。将来は中国から来た人にやさしい日本語で通訳などをしたい。」と発表した。
5	活動の場の特徴	サポーターと学習者が 2～3 回をめどにペアを交替して活動している。学習者が勉強したいことに沿って気を張らずに勉強できる。生の日本語の会話が聞ける。など参加している学習者にとっては、「居場所」的な心やすさがあるらしい。学習者から励まされ次年度も続けようかと話し合っている。

1	発表団体	NPO 法人にほんご豊岡あいうえお「あいうえお日本語教室」
2	タイトル	但馬地域における日本語教室のネットワーク「たじま多文化共生ネットワーク」
3	対象	但馬地域及び周辺地域の日本語教室、学習者（子ども、日本人の配偶者、技能実習生、就労者、呼寄せ家族など）
4	実践報告	【経緯】平成 8 年 9 月から 10 月にかけて旧豊岡市国際交流協会が日本語教育ボランティア養成講座を実施し、同年 11 月、兵庫県北部（但馬地域）に初めての日本語教室が開設された。但馬地域唯一の教室であったため、但馬全域から外国人の参加があった。遠方から通ってくる人もいたため、支援者は当初から但馬の各地域に日本語教室が開設されることを願いながら、活動していた。平成 16 年の台風 23 号により、但馬地域が甚大な被害を受けた際、地域の日本語教室が災害時に外国人住民の安否確認に大きな役割を果たすことが実証された。反面、刻々と変化する状況の中、一日本語教室だけで但馬地域の外国人住民の安否確認をするには無理があると痛感し、各地域に日本語教室をとの思いが一層深まった。平成 23 年から平成 24 年にかけて、朝来市、養父市に日本語教室が開設され、平成 23 年には支援者個人のつながりによる旧たじま多文化共生ネットワークが設立された。平成 26 年から平成 27 年にかけ、香美町、新温泉町にも日本語教室が開設され、但馬地域の日本語教室の空白地帯がなくなった。但馬地域の全市町に日本語教室が開設されたことにより、県の研修などが但馬地域でも開催されるようになった。個人のつながりで設立された旧たじま多文化共生ネットワークを教室間のネットワークへ移行するのが望ましいとの提案を受け、平成 29 年、NPO 法人にほんご豊岡あいうえおが中心となり、教室間のネットワーク設立に向け動き出した。平成 30 年、但馬の日本語教室をつなぐ「たじま多文化共生ネットワーク」が発足した。 【活動内容】 ・ネットワーク会議の実施（年 2 回） ・外国人住民に関するセミナーの開催（年 1 回） ・たじま多文化共生マップ但馬地域の日本語教室（やさしい日本語版、多言語版）を作成。現在、就学・進学に関するチャートを作成中。 【成果】 ・地域を越えて、学習者が日本語教室に参加することがより一層可能になった。 ・但馬地域の支援者が一堂に会す機会ができ、顔の見える関係ができた。また、支援者も 1 つの教室に捉われず、活動ができるようになった。 ・それぞれの教室の課題を共有することにより、解決策をみんなで考えることができるようになった。 ・支援者同士の勉強会等を合同で開催できるようになった。 ・地域と地域がつながるきっかけになった。
5	活動の場の特徴	・顔の見える関係が築ける場 ・だれもが気軽に集え、気軽に相談し合える場

1	発表団体	NPO 法人　小野市国際交流協会
2	タイトル	文化庁・日本劇団協会主催コミュニケーションワークショップ 「にほんごであそぼう」
3	対象	小野市周辺で生活する外国人および職場である企業、地域コミュニティに関わる日本人
4	実践報告	**【概要】** ・前年度に引き続き、兵庫県立ピッコロ劇団より講師を迎え、7/21～9/1　合計 4 回ワークショップを行った。 ・参加人数は、のべ 142 名（外国人 101 名、日本人 41 名）、国籍 12 カ国。 ・内容は、簡単なゲームから始まり、1 人に 1 文字ずつ割り振ったひらがなを使って言葉を作ったり、グループで相談（日本語で）お題に合う形を身体を使って表現するなど 【イベントの様子】 大目標：地域コミュニティにどれだけ、外国人が溶け込めるか 小目標：積極的に日本語を使う場を提供する。 勤務時間以外の時間を引きこもりがちな外国人に外へ出る機会を作る。 **【進め方】** ・小野市広報掲載、市内中学校とコミュニティ施設へのチラシ配布、小野市役所と協力し企業訪問、日本語教室学習者への情報提供を行い、参加者を募った。 ・ピッコロ劇団との事前打ち合わせ、参加外国人の日本語レベルの情報共有。 **【結　果】**  （＝次世代のグローバル化） **【今後の課題】**多文化共生事業のモデルとして発展させ、日本人、外国人という枠を超えて、人としてのつながりをより一層強め、皆が安心できる場を作る。
5	活動の場の特徴	・地域の外国人に日本文化に触れる場を積極的に提供（祭参加・着付体験・バス旅行など） ・地域の外国人と市内小中学生との交流イベント、また外国人の協力のもと、市内小中学校への国際理解の出張授業を行う。

1	発表団体	神戸中国帰国者日本語教育ボランティア協会
2	タイトル	高齢学習者は語る ～ みんな自分の物語がある ～
3	対象	中国残留邦人一世、二世とその配偶者（60 歳代～80 歳代）
4	実践報告	帰国（または移住）して 20 年～30 年になる残留邦人と二世、その配偶者は、日本語が不十分ながら働き、子を育て、孫ができ、それぞれのライフステージを経て、再び日本語教室に通い始めている。 支援ボランティアと学習を進める中で、「満州」でのできごとや養父母に引き取られてからの体験、帰国後のことなどを語ってくれることがある。これらの貴重な話は、その場その場で消えてしまう。戦争が引き起こした非常な体験を、一人でも多くの人に知ってもらいたいという気持ちと、帰国者にとって自分史のような物ができたらという思いから、記録をする取り組みを行った。時系列があちこちに飛んでしまうので、何度も聞き直してまとめた。教室のニュースレターに載せたところ、新聞社の取材を受け、新聞にも大きく掲載された。 新聞に掲載されたことで、近所の人に日本人だと分かってもらえたことや、苦労してきたことを理解してもらえて、うれしかったという感想を後日話してくれた。 一方で、中国での日々の暮らしの悲喜こもごもが、冬至や立春などの季節の節目で、いきいきと語られることもある。悲惨な体験だけでなく、小さな喜びや、輝く一瞬があったことも、見逃せない。 幼少時、教育を受ける機会に恵まれなかった人達が、日本語と中国語を交えて話してくれる内容は、一つ一つ物語のようである。中国の日常生活の小さな話題を、やさしい日本語で短い文にまとめてみた。 残留孤児の体験は次世代に残しておかなければならないが、つらい記憶を思い出したり、話したりしたくない人もある。できるだけ多くの帰国者に話してもらいたいが、自ら語ってくれない人から話を引き出すのは難しい。 一世二世の世代は、人生のまとめの時期に入っている。日本と中国二つの背景を持っている彼らがそれぞれの文化を誇りに思い、自分の人生を肯定できる一助となれば幸いである。
5	活動の場の特徴	50 歳代～80 歳代の中国帰国者の他に、さまざまな背景を持って日本で暮らす外国ルーツの人、周辺大学の留学生等もいっしょに学んでいます。支援ボランティアは、全体に高齢化しているが、神戸外大の学生も長くは活動できないものの、教室に活気をもたらしています。

1	発表団体	ＮＰＯ法人加東市国際交流協会　日本語教室
2	タイトル	2018 年 11 月「どんな日本語教室にしたいか」から 1 年間の実績
3	対象	日本語教室に通う技能実習生やエンジニアの人など
4	実践報告	1 年前に考えた「どんな日本語教室にしたいか」で設定した３テーマについて 2019 年に実践した内容について報告する。  新たな実践実施内容 １）日本語上達の支援活動 ・指導ボランティアの量的向上 人権学習会の講師になり日本語教室をアピール 加東市河高地区で実施（50 人参加）　Ｖ1 人増加　7 月 小野高校で実施（320 人参加）　Ｖ数名が参加　11 月 ・指導ボランティアの質的向上 ＨＩＡの研修会にＶが 6 名参加し指導方法を学習する　6～8 月 ２）多文化共生の為の交流活動 ・地域イベントの参加促進（加東市盆踊り大会に 20 名参加）　8 月 ・地域バスツアーの実施（三草山登山＆バーベキューに 16 名参加）　2 月 ・国際交流協会主催の外国人スピーチ＆のど自慢コンテストに 6 名参加　11 月 ３）生活で困ったことの相談窓口活動 ・市の防災課による防災教室に 33 名参加　12 月 ・なんでも相談受付パンフレットの作成・配布　12 月 日本語、英語、ベトナム語版を作成し教室や市役所市民課で配布 今後は、インドネシア語、ミャンマー語、ポルトガル語も作成予定 **2020 年実施予定**：社会福祉協議会のＶセンターを活性化させ、全てのＶ団体をＶバンクに登録して多様な人財から日本語教室のＶを集める（2020 年 6 月～）
5	どんな場	学習者約 50 名、支援者約 16 名のそれぞれの居場所作りを目指す。

1	発表団体	佐用日本語教室（火曜日チーム）
2	タイトル	～楽しく続ける！！～
3	対象	主婦（佐用町で暮らす外国人の主婦など）

4　実践報告

佐用日本語教室（火曜日チーム）

1. メンバー

生徒さん：
女性４名（フィリピン２名・インドネシア１名・キルギス１名）
ボランティアスタッフ：2～3 名（主婦）

2. 授業をするうえで･･･

- 楽しく続ける。スタッフも学習者と楽しむ。
- 「半分勉強、半分食べること！」
- 授業を通して日本を知ってもらえる。
- お互いを、お互いの国を知る時間。

相互理解
↓
楽しく続けられる

3. 授業内容＆風景

〈季節の歌を通して〉歌詞が教材。一緒に歌う。
- こいのぼり（まごい/ひごい）・かえるのうた
- たなばたさま（子供の幼稚園の七夕会で歌えた）
- 虫の声（虫/まむし）・故郷（ふるさと。子供に教えたい）
- お正月・うれしいひなまつり（古い掛軸）

〈行事や季節、文化を通して〉
- お花見・七夕会・ひまわり・台風・運動会・七五三
- 冬至（こんぶ/こんにゃく）・クリスマス会
- 年賀状・しめ縄・祝いばし・おせち料理・着物

〈お料理を題材にして〉レシピが教材。作り方も紹介
- おはぎ・いなり寿司・蒸しケーキ・チョコレートケーキ
- ヨーグルトケーキ・ゆずジャム・おにぎり・そうめん

＊外国の料理も教えてもらう
- ガドゥガドゥ・プリン・えびせんべい・えびの炒め物
- 結婚式の料理

〈物づくり〉
- 巾着袋・クリスマスブローチ・お正月リース

〈日常に合わせて〉
- 幼稚園の連絡ノートの書き方・幼稚園や学校からのお便りの見方
- 運動会中止の時についてのお便りの見方（天気予報の警報についてなど）
- 名前や住所の書き方・お手紙の書き方・浴衣の上げの仕方
- チラシの見方・病院に行ったとき・薬の説明書（用法）

4. その他：生徒さんのコメント

即位の礼で教室がお休みになった時に「残念」と言われた。

ボランティアスタッフによる詩　（神戸新聞文芸で入選）

「力強い文字」
佐用　飛岡佐恵子

ルソン島はここ
ジャカルタはここよ
キルギスはこのあたりかな
セピア色の地図を広げて
愛しく母国をなぞる
ここは山里の小さな教室
始まりの合図は
昆虫図鑑を広げて
「むしの声」を合唱
りんりんりんりんりんりん
すず虫と輪唱できないかな
人種を超えて心が一つになり
平和になる時間
大きなマス目の大学ノート
何冊目かな
何回もひらがなカタカナを
練習しましたね
力強い文字に
この町で生きていく
気迫を感じました
ハーモニカの音色で
「ふるさと」が好きになったと
呟いたNさん
目頭を熱くしたあの日
細やかな出会いが
いつの日かこの町で
宿ってくれると
願っています

5　活動の場の特徴

「楽しく続ける！！」をモットーに、主婦による主婦のための日本語教室です。
　教室では、日本語の勉強はもちろん、料理や生活習慣、年間行事、また子どもの幼稚園や学校のことなど先輩主婦としての目線での工夫がいっぱいです。
　スタッフも「日本を、佐用町をもっと知ってほしい」「私たちもいろんな国のことが知りたい」とわくわくした気持ちがあるからこそ、続けることができるのだと思います。
　これからも、いつも〝わくわく〟を忘れず、学習者の皆さんと一緒に楽しい教室を作り上げていきたいと思っています。

1	発表団体	NPO 法人多文化センターまんまるあかし「みらいのきょうしつこどもくらす」
2	タイトル	「外国にルーツを持つこども達の未来に寄り添う！」
3	対象	外国にルーツを持つこども
4	実践報告	□　活動の必要性について 外国にルーツを持つこども達は、言葉の壁がありコミュニケーションを取りにくく、疎外感を感じたり友達ができにくかったり、授業が理解できないなどの問題がある。また言葉に不自由がなくても、文化の違いからアイデンティティの揺らぎが起きがちである。実際にそういった問題を抱えたこども達に出会い活動を始めた。 □　活動について ・こども達の「居場所」を提供 ー 心の安定を図る。 ・日本語学習の機会を提供 ー 学校や日本の社会に早く溶け込める。 ・教科学習支援 ー ことばの制約を前提とした教科・支援を提供。 ・進学情報などの提供ー日本の実情がわからないことによる不利益を減らす。 □　うまくいった点について 引越しなどの都合で来なくなった子はいても、「行きたくない。」と言った子はいない。支援ボランティアがこども達の持つ文化や特性を尊重し接しているからであると考えている。 □　今後の課題について ・養成講座が満席になっても、実際に活動をしてくれる人が少なく、慢性的にボランティアが不足している。如何にして意識が高く、クラスの時間帯に都合のつけられる人を見つけるかが大きな課題である。 ・こども達への支援技術や手法が確立されておらず、手探り状態である。 （特に母語が確立していない小学校中学年で日本に来たこども達への方法） ・ダブルリミテッドを回避するための母語保持活動をどうするか。 ・活動資金の調達　ー　活動拠点の賃借料、維持費、人件費。 今後、こども達の人数が増えることは容易に予想できるが、今の拠点は手狭でこれ以上の受入が難しい。移転を考えているが資金調達が困難である。 学習風景　　進学相談会（先輩と話そう）
5	活動の場の特徴	当法人は国籍や文化の違いに関わりなく、地域に住む全ての人々が支え合い、共に生きる未来になることを願って活動しています。そのために外国人や外国にルーツを持つ家族への支援事業や、地域の人々が気軽に世界中の様々な文化を持った人々と触れ合える事業をしています。団体の活動の中で、日本語・教科学習支援教室「みらいのきょうしつ」は根幹となる事業です。外国ルーツのこども達を対象とした「こどもくらす」と、主に外国人ママを対象とし、未就学児の帯同が可能な「おやこくらす」があります。教室名の「みらいのきょうしつ」は、外国人や外国にルーツを持つ家族の希望溢れる未来に寄り添いたいとの願いを込めて名付けました。活動開始 5 年目の新しい教室ですが、志のある 46 人のボランンティアに支えられ、これまでに 88 人の未来に寄り添っています。和気あいあいとした、賑やかで笑顔が溢れる教室です。

1	発表団体	特定非営利活動法人　篠山国際理解センター
2	タイトル	企業との連携について
3	対象	技能実習生　定住・永住者　その配偶者
4	実践報告	１．丹波篠山市の外国人の人数等について ２．日本語教室「うりぼう」について 日本文化体験（お茶・書初め）など ３．現在連携している企業について 篠山国際理解センター：企業団体会員　7 社 ４．2019 年度「兵庫県地域日本語教育の体制づくり推進事業」 丹波地域モデル事業について ・外国人住民のための初期日本語講座 ・企業と連携した日本語講座 ・住民参加型イベント 「日常生活に役立つ日本語会話」 ・ゴミの分別ワークショップ ・防災マップで避難所の確認 ・自転車の乗り方ルール ・薬の飲み方
5	活動の場の特徴	・1998 年日本語教室「うりぼう」開講　21 年目 ・現在：学習者 7 か国 23 人 （ベトナム・アメリカ・ブラジル・英国・インドネシア・南アフリカ・トリニダードトバゴ） ボランティア支援者 17 人

1	発表団体	東灘日本語教室
2	タイトル	日本語スピーチ大会の意義と実践
3	対象	教室の支援者・学習者
4	実践報告	5年前、フィリピン出身の学習者がアイルランドに移住したところ差別を受けたが、その体験を作文に書いたところ言葉の壁を差別と錯覚したと報告を受けた。その作文を読むとモヤモヤした感情は一度言葉にしてみると書いた人の生活にも強い影響があると信じて、教室でスピーチ原稿を募集し、スピーチ大会を開くことを提案し、以来5回の実績を残している。 スピーチ原稿の作成、スピーチ大会への参加により話す・聴く・読む・書くの日本語の総合力の向上を目指した。2015年から2019年にかけスピーチ原稿の提出者は35人、28人、24人、34人、34人と学習者全体の60人～70人の30%～50%を占めている。スピーチ大会参加者は11人、17人、20人、18人、16人である。 経験を積むにつれて、余裕が出てきたのか、個性的で中味の濃い原稿が増えてきた。 非原稿を目指していた初期に比べて、スピーチもほとんど原稿なしで実施されるようになった。 地域社会や、他の日本語教室との協力など教室を超えた広がりを模索している。
5	活動の場の特徴	教授者が40人、学習者が60人ほどで一対一のレッスンを実施している。スピーチ大会の他、新年会、書き初めお花見、七夕、ハイキング、文化交流などのイベントを実施している。